

片山参事の施設8時間稼働発言について

平成29年5月13日 クロスフォート専任者 山崎 武

【 確認結果 】

- ◎ 施設の5時間稼働では2回目の組成分析結果から算出された量を、計画上の施設規模では処理し切れないことが判明した。
- ◎ 2回目の組成分析結果では約500t/年処理量が増加するが、その場合は処理ができないとの質問に対しての発言で有る事が確認できました。(P-50、5回目の発言)
- ◎ 片山参事が8時間稼働について説明している内容は、故障等の有事に限定となっている。
※計画課、伊藤課長から平成28年4月9日の協議会で説明をしているとの情報を頂きました。P18で発言をしております。
(議事録内容)平成28年4月9日協議会会議録のP-18、片山参事の発言内容。
>私どもは、施設は環境に配慮し昼間のみ稼働を前提に設計しています。
>10時間稼働を前提とした類似施設もございますが、延長運転は故障等の
>有事に限定したいと思っています。その場合も8時までとするように計画しています。
- ◎ 8時間稼働をすることが有ると一貫して説明をしているとのことだが、伊藤課長からの情報では、上記の協議会で1回だけ説明をただけです。P-52 4回目
- ◎ 実施計画書のP-10には、操業条件の設定として
「1日当たり5時間運転で行うことを基本としますが、年末年始等の繁忙期、操業停止を伴う点検や補修工事を行う場合等、容リプラの貯留量の状況によっては20時を限度に延長運転を行います。」
- ◎ ごみ量予測についての質問内容の平成29年4月8日回答分の13/13回答、搬入量容リプラ456t/年の増までは処理が可能です。との回答と整合性が取れていない。処理量が500t/年増えると計画の施設では処理能力が不足します。
- ◎ 基本5時間稼働と説明をしており、8時間稼働が定常的に行われる事は想定していない。片山参事の発言は搬入車両の増加、排気ガスの増加等、周辺住民への配慮が無い発言で有り、看過できない。
- ◎ 実施計画で貯留ピット容積が3日以上と設定していたものが、実際は2日分に減らされていた。搬入量が増える可能性が有るのならピット容積を増やして対応すべき。運用業者が2日分のピット容積で処理可能と判断したので減らしたのではないのか。

以下が平成29年4月8日の会議録内容を引用した内容です。

2:04:~

(山崎委員)

2回目の組成分析結果を使うと約500t処理量が増える。

実施計画の処理量の変動率を加味しても4250t/年であり

2回目の組成分析結果で変動率を加味した処理量は4800t/年となり処理できない。

(片山参事) P-50 5回目の発言

あの、まず、前提としてはですね、ピークを捉えているということですね。施設規模は、最も、あの、資源が多く出るであろう年度をピークとして計算しているということがまず1つ。それから、今ここには書いてございませんけどさらに、これはあまりやりたくないんで書いてないんですけども、えーと、5時間運転で施設容量を出しています。

(片山参事) P-51 2回目の発言

話、ちょっと最後まで聞いてくださいよ。施設規模は、えー、5時間運転で設定をしていますので、残業すれば8時間まで運転できるわけですよ。

(森口委員)

5時間稼働でお願いしていて、規模が足らなくなったら8時間でやらせて下さいはおかしいでしょ。

(片山参事) P-51 4回目の発言

いや、そんなことはないですよ。あの、私どもは、えー、状況によりましては8時間運転まで限度に、えー、あの、延長運転することがあるということで、えー、発注してますんで、それは皆さんに説明はしてるはずですよ。

(片山参事) P-51 5回目の発言

ですから5時間運転で、5時間稼働で設定をしますけれども、ピー、ピーク、ですからごみ量が、例えば故障が長引いてしまったりっていうときのために、えー、残業しますよと。

→ごみ量のピークは年末年始が対象で、機械故障での稼働停止は運用会社が保証しているとの説明をしています。組合はピット容積を3日分から2日分に変更しました。

(森口委員)

それは故障が長引いた時ですよ。最初からピットの数が足りない時で無いですよ。

(小川委員)

5時間稼働と書いて有りますよ。

(片山参事) P-51 3回目

ただし、ただし、8時までの、限度に延長する、する、運転をすることがありますよという形で、ご説明はしています。

>議事録では第28回(平成28年4月9日)のP18で発言をしております。

(議事録内容)

私どもは、施設は環境に配慮し昼間のみの稼働を前提に設計しています。

10時間稼働を前提とした類似施設もございますが、延長運転は故障等の有事に限定したいと思っています。その場合も8時までとするように計画しています。

【有事】→非常の事態がおこること。施設では想定外の機械故障が対象とするのが妥当。

(山崎委員)

現在の計画処理量に対して2回目の組成分析結果からだると4250t/年の処理量を超える。何でもかんでもやればできるからこれで良いんだと言う今の説明だとおかしいですね。

(片山参事) P-52 4回目の発言

ですから、過大施設になっても困りますし、もちろん、過小施設ではもっと困るわけですから、そういう面で、5時間運転で、ピーク時で、えー、設計させていただいていると。で、なおかつ、にげ、逃げっという言い方がいいかどうかわかりませんが、えー、想定外のものがあつた場合についてはですね、8時を限度に、延長させ、延長運転をさせていただきますと、ここで一貫してそれで説明してますし、それで環境影響調査もやらさせていただきます。

→有事の際に延長稼働を認めて貰うとの説明をしています。処理量の想定外は変動率を考慮した設定になっているので対象外です。

→一貫して説明をしているとの事だが、実際は平成28年4月9日だけです。

(山崎委員)

4250tがピーク時で有っても変動率を掛けなくても4250を超えちゃう訳ですよ。

で、更に変動率を掛けると4800tまで行っちゃうんです。

550t増えます。(559t)足らなくなりますよね。

それを何?稼働時間を延長してやると言う事?

え、初めからやると言う事?

(片山参事)

初めからやるとは考えていません。

(山崎委員)

2回目の計算で行くと4800tになっちゃうんですから。

(片山参事)

2回目を使いますが2回データがあれば、一般的に加重平均を使いますよね。
私どもは1回目で設定していますから、2回目が出たらどうなるのかと仰っていますので、ですからそういう場合は8時間稼働ですから60%UPまで耐えられます。
と言うお答えになっています。

→2回目の結果で予測値を出したらと質問していますので、平均値を使うとか加重平均値を使うとの事では有りません。

→組成分析結果は内分率を求めていますので加重平均を使うとの説明は理解できない。

→ごみ量予測についての質問内容の13/13回答は搬入量容リプラ456t/年の増までは処理が可能です。との整合性が取れていない。

→8時間稼働延長はあくまでも「有事」に限定され、定常的に延長稼働するという事は施設規模が間違っていたとの証明です。

(小川委員)

統計学的に言えば50回、100回やってそれで数値を出すのが根拠の有る数字
1回、2回やってこれが妥当の数字だと言うのは誰も納得できませんよ。

(森口委員)

施設の規模と言うのは入って来る量で上流になる訳です。

焼却炉に関してはここが無ければ上流が整備されないと言っておきながら、こんな上流の整備の仕方では施設規模をあやふやなまんま、ここを進めて行く事はおかしくないですか？
プラごみは容量が3倍にもかさばるからと言っているのですから、かさばる物に対してそれだけ甘い見方をしてトン数だけの問題では無いです。

焼却炉に対してこれだけ上流、上流と言うのであれば、こちらの上流もきっちり整備して下さいよ。

(邑上会長)

バラつきの有る組成分析なのに1回だけで処理する量を決めている事が問題ですよ。と言っています。

それに対して良いんですとの説明だけど、なかなか難しいかなと。

何かを検討するのに1回だけの結果で決めるのは考えにくいのかと、それが普通の捉え方かなと思う。

今みたいな説明では誰もそうだねとは言えないと思うんですね。

量、4250tと言っているものが4800tになる可能性が有る。勿論、もっと増える可能性も有る。

組成分析の結果を2回見て1000t増えると言う話しなので、倍になる可能性も無いとは言えない。

4250が4800になった時に環境影響調査はどうなるのかな？

車が通る量とか時間とかそういう条件で音とか臭気なりいろいろやったかと思えます。

条件が全然、違う環境影響調査と言うのは都市計画決定に影響を及ぼさないのか？

低い条件で調査した結果、大丈夫ですと言うふうにして、実はその2倍でしたとかで

もっと環境が悪化する事が事実だったとしたら何も問われないものなのか？

やっしまいもの勝ちなのか？

交通量が増える。排気ガスの問題。大型トラックによる震動の問題等、変わってしまう事が仮に有ったとした時に何もそれは問題にならないことなのか？

(片山参事)

2回目、3回目で著しく大きく変わった時は環境影響調査に影響が出ると思えます。

現状で考えられる最も悪条件側で設定している。8時間延長では影響は無い。

現在のビン・缶・ペットに更に上乗せして車輛台数を設定していますので、影響は無い。

著し変化が有れば環境影響調査をやり直す必要が出て来る。

(邑上会長)

4250tが4800tになると2割位、増える。車も2割増えると思うが、それは出来て実際はこうでしたと初めて判るので有って、その状況の時に環境影響調査をやり直すとかやっぱり足りなかったからと言って施設を增強しないで運転時間を延ばすのですかね？

環境影響調査をやり直すんですかね？

調査自体をやらないといけないと思うんですね。組成分析をやるのであれば回数を増やしてより確からしい値をにして行くとか、違ったやり方？民間委託での処理

前提の数字を確からしい数値にする事が必要なのではないか？

以上